

大谷中学校・高等学校

令和 7 年度学校関係者学校評価委員会

【日 時】 令和 7 年 7 月 2 日（水）13：00～15：00

【場 所】 大谷中学校・高等学校 A 館大教室

【出席者】（敬称略）14 名

北本 義章	大阪市立松虫中学校校長
三木 健史	大阪市立丸山小学校校長
大谷 武彦	(株)ERP 代表取締役
富田 晃司	大阪大谷大学副学長
潮田 文恵	保護者代表（現 P T A 会長）
佐野 淑	卒業生代表（成美会）
萩原 英治	校 長
市居 政彦	教 頭
山下 愛子	教 頭
澁谷 敬史	教 頭
大橋 康司	教務部長
嶋崎 信武	生活指導部長
河野 さち子	進路指導部長
田所 トシヨ	英語・海外教育部長

1) 開会挨拶 校長 萩原 英治

2) 出席者紹介 校長 萩原 英治

3) 資料

資料 1『令和 6 年度	大谷中学校・高等学校 学校評価』
資料 2『令和 6 年度	生徒アンケート』
資料 3『令和 6 年度	保護者アンケート』
資料 4『令和 6 年度	教員による学校自己評価』
資料 5『令和 7 年度	学校経営計画及び学校評価』

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

百十五年の歴史を持つ本校は、3 万を超える幾多の人材を輩出し、女子教育に邁進してきた。その伝統を引き継ぎ、 1 報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて、慈悲の心を有する優しい女性を育成する。 2 より高度な学力養成をはかり、自ら課題を発見し、解決するための論理的思考力、判断力、表現力を高め、高い知力を備えた聡明な女性を育む。 3 宗教的情操教育を基盤とした生活指導により、礼儀正しい美しい女性を育てる。 以上により、人間力に秀で、グローバルに活躍し、社会に貢献する女性を育成する。
--

2 中期的目標

1. 学習指導 ① 授業改善に取り組み、教員の授業力を向上させる。 ② コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。 ③ 自ら学びに向かう姿勢を養い、学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。
2. 進路指導 ① 生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。 ② 中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。 ③ 将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に付けさせるため、キャリア教育を通じ、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。
3. 生活指導 ① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。 ② 生徒対象に防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。 ③ 教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施し、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。安全で安心な学校づくりのため、カウンセリングや必要に応じた教育支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実を図る。
4. 海外教育 ① グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。 ② 様々な場面を活用し異文化理解に努める。 ③ 英語によるプレゼンテーションの向上を図る。 ④ ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。
5. 生徒募集・広報活動 ① 中学校入試では入試行事参加者を増やし、入学者数増加のためより積極的に広報活動に努める。 ② 高校入試では幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、入学者増をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [7 年 2 月実施分]	学校評価委員会からの意見
令和6年度の生徒、保護者アンケートは、満足度を単刀直入に聞く形に変えた。 教員アンケートは、質問内容を精査し、質問数を減らしている。 生徒アンケートは、回収率約9割。高3については、授業がなくなってからの3学期に実施したため一部未回収となった。 全体的に肯定的回答が多いが、「スマートフォン、SNS」に関しては注目の必要あり。 保護者アンケート、回収率約6割。集めきれず申し訳ない。 「挨拶」に関しては、改善傾向。一方、「家庭学習の習慣」については、課題ありとの結果が出ている。 教員アンケートのうち、「教育課程の工夫」については、「ipadの活用」により昨年度より高い評価となっている。 また、「他教科との情報交換」、「学習指導力の向上」は、授業見学や、授業研鑽の結果、他教科の意見を授業に生かすことができたこと等により、昨年より高い評価になっている。 「生徒の進路選択のための情報提供」に関しても、8割以上の高評価となった。	・肯定的な意見が多く、よかった。アンケートも見やすくなった。HPも、動画などがあり、生徒の様子がよくわかる。 ・小学校から探究的な学習をしている。タブレットを文房具のように使いこなすようになる。中学校でも探究的な学習は重要だ。 ・大谷中では、英検について、〇パーセントという目標はあるか？公立中では、中3は3級。 ・大谷中学校って、どんな中学校？と聞いてもピンとこない。スポーツ？進学？何か一つ明確な打ち出しがあればよいのでは。 ・「何をするか」「どのようなことをするか」の上に、「なぜ（やらなければならないか）」がないと、生徒は動かない。〇〇高校の探究的学習の動機づけなど参考にできる。「なぜ」を、もっと強く打ち出したほうがよい。 ・「なぜ」中心の教育は大変よい。大学生でもできない。覚えようとするだけで、結果パンクする。個人でアクティブラーニングしなければ、大学に合格できない。 ・大谷の特色が、何か一つでも出せたら。アンケートの結果はよかった。 ・医学部医学科合格を目指すクラスは、授業のレベルをどこに置くかが難しい。卒業生の医大生などに、その大学に合わせた勉強法を聞くのもあり。国公立を受ける生徒に対する戦略が必要。 ・先生方の普段の努力が伝わってきて、感謝している。娘が大谷を選んだ理由は、先生と生徒の距離が近い、面倒見がよい、指定校が多いということ。実際、中学では生徒同士のトラブルも、先生が手厚く相談にのってくれる。そのため、高校では自分で解決できる女性になってきたように思う。 ・私自身も大谷。娘も大谷。本当に感謝している。今日、学校に来る際、広がってしゃべりながら下校する大谷生に会った。かつて自分も同じだったと思うが、このたび、総合グラウンドが住宅になることで、苦情が増えるのではと懸念する。学校の近くの住居だからといって、必ずしも学校に好意的な人ばかりではないと思う。生指の先生によりしくお願いしたい。 ・食堂の席数が、在籍数に対して少ない。改装されると聞いたが、席数を増やしてほしい。キッチンカーやお弁当販売を考えてほしい。保護者は、お弁当作りが負担だし、夏は腐らないか心配もする。 ・同窓会としては、広報に協力したいと思っている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導	①教員の授業力向上 ②コースに応じた学力向上の取り組みを強化。 ③学習習慣の確立と基礎学力の定着。	① ・校長による授業参観を行い、指導助言を行う。 ・授業研鑽週間を3学期に設ける。 ・ICTを活用し、「新しい学力」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。 ・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。 ② ・各学年で生徒の考査成績や模試成績を分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。 ③ ・学習習慣の確立と基礎学力定着のために小テストを実施する。 ・各学年の学習状況を、具体的に把握をする。 ・中一、中二について「O.S.R.」を着実に実行し、成果を上げる。	① ・校長の指導助言を受け、授業改善に取り組む。 ・中学、高校の授業をそれぞれ1回以上見学し、報告書を提出する。 ・一人一台のタブレットを活用し、リモート授業にも対応するとともに、生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得させる。 ・学習指導委員会による検討内容を全教員が共有し、学年間や教科間での連携、現状認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かす。 ・高校の新課程、新カリキュラム、観点別評価について、検証を行う。 ② ・考査や模試の偏差値で40以下となるような成績となる生徒をなくすとともに、各学年の中間成績層をのばす。 ・上位層の数を増やす。 ③ ・全員合格を目指して指導する。 ・成績不十分者には追試や課題などを与える。	① ・ほとんどの教員が授業研鑽を行い、報告書を提出した。ただ、その内容についてのフィードバックは不完全である(△) ・出席停止あるいは長期間の入院が必要となった生徒に対して、オンライン授業を行った。また、ICTの活用が年々広がり、学習活動の活性化につながっている。(○) ・学習指導委員会では、生徒の現状に応じて、授業の進め方や効果的な講習のあり方について検討したが結論には達していない。(△) ・高校新カリキュラムについては、各教科で浸透し、検証を行った。(○) ② ・BLENDによる定期考査・学力考査の成績を生徒、保護者に配信し、個々の学力到達度を教員と共有し、学力向上に努めた。(○) ③ ・放課後学習支援教室(OSR)の活用を促し、学習習慣の定着を目指し、下位層をなくすことに努めた。今後も継続が必要である。(△) ・高校では進路にあった講習を実施した。(○)
	①個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導。 ②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開。 ③キャリア教育を通じ、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できるための様々な取り組みを工夫。	① ・平常講習や長期休暇中の講習を実施する。 ・卒業生のチューターを活用して少人数の個別指導をしたり、体験談を聞く機会を設けモチベーションアップにつなげる。 ・中学校低学年においては、コース変更を柔軟に行い、それぞれの学習ペースに応じた学習環境を整える。 ・学習や進路についての個別面談をきめ細やかに行う。 ② ・生徒自らが適切な進路選択を行えるように、適切な時期に進路について考える機会を設け意識を促す。 ・模擬試験を活用し、自身の学習到達度を把握させる。 ③ ・生徒が将来の姿を思い描く手がかりになるように、様々なキャリア体験の機会を設ける。 ・大学の出前授業や外部団体による体験授業などを活用し、生徒のモチベーションのアップを図る。	① ・それぞれの講習の日程・回数・内容について、生徒のニーズに合っているか、7割以上の満足度を得られているかを確認する。 ・コースの目標に沿った学習計画・学習内容が展開されているか、確認する。 ② ・国公立大学の合格者数が在籍人数の2割を超えること、医学部医学科合格者数をのべ20名程度、関関同立の合格者数がのべ120名以上をめざす。 ③ ・学年ごとに将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。 ・外部講師を招いての講演会を、高校各学年において1回ずつは実施する。 ・休暇中に実施される外部体験学習などへの参加を勧める。 ・報告文・感想文などを提出させる機会を多く設ける。	① ・医学部医学科の合格数は15名となり、20名にはとどかなかったが、R5年度10名を上回ることができた(○) ② 国公立大学の合格数は過年度を含み35名、現役のみ28名であった。R5年度は33名(現役28名)であったのでR5を上回ることにはできたが、在籍数194の2割(38名)には届かなかった。 関関同立大の合格数が84名となり、3桁に届かなかった。(△) ③ 各学年のキャリア行事については、外部講師による講演会、または見学会・体験学習などで実施することができた。(○) 体験授業(中2中3)・外部団体による授業(高1高2S医)などでは、生徒のモチベーションアップをはかることができた。(○)
3 生活指導	①「時間厳守」「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」。 ②生徒対象防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などの実施。 ③教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施。学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実。	① ・講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。 ・遅刻の多い生徒への個別指導を行う。 ② ・防災避難訓練の実施。SNSについての講演。 ・薬物についての講演。性被害についての講演。 ③ ・いじめに関する職員人権教育研修会を実施。 ・学園カウンセラーによる職員研修を実施。 ・学園カウンセラーとの情報交換。	① ・生徒・保護者アンケート。遅刻指導の報告書。 ② ・生徒・保護者アンケート。危機管理についての意識付け。 ③ ・教員アンケート。	① ・講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。(○) ・遅刻の多い生徒への個別指導を行う。(○) ② ・防災避難訓練の実施。(○) SNSについての講演。(○) ・薬物についての講演。(○) 性被害についての講演。(○) ③ ・いじめに関する職員人権教育研修会を実施。(○) ・学園カウンセラーによる教員研修会を実施。(×) ・学園カウンセラーとの情報交換。(○)

4 海外教育	①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成。 ②異文化理解。 ③英語によるプレゼンテーションの向上。 ④ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力の涵養。	① ・夏期海外研修・姉妹校交流などを推進する。 ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンにおける活動を推進する。 ② ・ハートグローバルをはじめとする異文化交流を積極的に推進する。 ③ ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンでの活動内容を充実させる。 ・SDG s に関わるテーマについて情報収集と交流をすすめる。 ④ ・NZ 留学の成果を他の生徒の前で発表させる。	① ・ニュージーランド夏期研修・オーストラリア夏期研修を通じて国際理解を深める。 ・GEZ におけるネイティブとの英語レッスンの参加者アンケートを実施。 ② ・ハートグローバルを招聘し、様々な文化に触れ理解を深める。 ・異文化理解講演会にて、海外に興味を持たせる。 ③ ・グローバル・イングリッシュ・ゾーンにて初級・中級にわけて英語における発話を促す。 ④ ・一人もしくは少数者による英語プレゼンテーションを数多く経験させて、実用英語力の定着を図る。	① ・オーストラリアに28人の高校生を連れて行き、4月に本校を訪れた姉妹校の生徒の家庭にホームステイをするなど、濃い交流ができた。(○) ・中学2年・3年生30人をニュージーランドへ連れて行き、姉妹校を訪問するなど、若年層に国際感覚を育成することができた。(○) ② ・ハートグローバルにおいて海外の若者と交流することにおいて自己発見の機会を与えた。(○) ③ ・GEZ での活動は充実したものとなった。(○) ④ ・帰国生に1人あたり約4回プレゼンをさせた。(○)
5 生徒募集・ 広報活動	①＜中学校入試＞入試行事参加者を増やし、募集定員確保のための積極的に広報活動。 ②＜高校入試＞幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保。	① ・参加人数を増やすとともに、行事の質を担保することで、参加者の満足度を高める。 ② ・塾訪問の回数を維持すると同時に、新たに訪問する塾を増やす。 ・公立中学訪問の回数を維持すると同時にダイレクトメール等で、入試情報提供を行う。 ・中学校への広報を学年主任・担任の先生方にまで浸透するよう取り組む。	① ・参加者アンケートの分析。 ・出願者の通塾先の分析。 ② ・出願者の出身中学の分析。 ・本校説明会や外部相談会本校ブース参加者の人数。	① ・アンケートや通塾先の分析を行い説明会の内容を改善し、塾訪問も効果的にできたものの、回数をさらに増やすべきであると考える。(△) ② ・説明会ブースで人数は少し増えたが、更に説明会の質の向上、開催の周知徹底、及び塾訪問回数の増加を目指すべきだと思える。(△)

令和6年度（2024年度） 生徒アンケート

大谷中学校・高等学校

948

質問番号	質問内容	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
A	朝礼、終礼や校門での一礼にまじめに取り組んでいますか。	60%	34%	4%	2%	
B	日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	46%	46%	7%	1%	
C	日常生活で時間を守って生活できていますか。	49%	37%	12%	2%	
D	挨拶は自分からできていますか。	43%	40%	14%	3%	
E	授業は理解できていますか。	29%	51%	17%	3%	
F	小テストや講習にまじめに取り組んでいますか。	36%	45%	15%	4%	
G	毎日、家庭学習(0.S.R.を含む)はできていますか。	34%	36%	23%	8%	
H	学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会 になっていると思いますか。	34%	43%	17%	6%	
I	大谷の海外研修や留学生との交流により国際理解が深められていると思いますか。	35%	40%	16%	8%	
		十分に 気をつけている	気をつけている	あまり 気をつけていない	気をつけていない	SNSを利用してい ない
J	SNSやスマートフォンの利用について、家庭で決められた使用方法などのルールを守って いますか。	32%	47%	15%	5%	1%
		そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
K	学校における活動に積極的に取り組んでいますか。	45%	44%	9%	2%	
L	学校行事は楽しいですか。	66%	27%	5%	2%	
M	家族と話し合う時間が取れていますか。	62%	27%	10%	1%	
N	大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。	38%	45%	12%	5%	
O	大谷中高に入学して満足していますか。	40%	42%	12%	6%	

令和6年度（2024年度）保護者アンケート

大谷中学校・高等学校
集計 582名

質問番号	質問内容	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
A	大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。	55%	41%	3%	1%	
B	お嬢様は日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	36%	54%	8%	2%	
C	お嬢様は日常、時間を守って生活できていますか。	38%	42%	17%	3%	
D	お嬢様は日常、挨拶ができていますか。	54%	38%	7%	1%	
E	大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。	29%	52%	14%	4%	
F	保護者の方に生徒の学習状況・成績等はわかりやすく伝わっていますか。	44%	45%	10%	1%	
G	お嬢様は家庭学習の習慣(O.S.R.を含む)が身についていると思われますか。	29%	37%	26%	8%	
H	大谷が実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは、お嬢様が自分の将来を考えるための機会になっていると思われますか。	30%	52%	16%	2%	
I	大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思われますか。	26%	48%	24%	2%	
		そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	SNSを利用してい ない
J	お嬢様はSNSやスマートフォンの利用について、ご家庭での使用方法などの決まりを守っておられますか。	29%	41%	21%	8%	1%
		そう思う	どちらかといえば そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
K	大谷のPTA活動は活発だと思われますか。	18%	54%	26%	2%	
L	保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。	49%	43%	7%	1%	
M	ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。	58%	36%	6%	0%	
N	大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。	44%	49%	6%	1%	
O	大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。	43%	46%	9%	2%	
P	大谷が保護者の方とお話する機会をもっていると思われますか。	32%	48%	18%	2%	
Q	お嬢様を大谷で学ばせることができよかったと思われますか。	54%	37%	7%	2%	

令和6年度（2024年度） 教員による学校自己評価^{59名}

項目 番号	各項目について、下の1～4のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。 1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：あまりそう思わない 4：そう思わない	中高全体（％）			
		1	2	3	4
1	学校の教育方針、教育目標、年度毎の努力目標について周知されている。	29%	53%	15%	3%
2	建学の精神である「宗教的情操教育」が教育活動全体を通じて実践できている。	37%	53%	10%	0%
3	朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。	78%	20%	0%	2%
4	今年度の生活指導の目標を意識して生徒指導ができている。	20%	56%	15%	8%
5	宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。	53%	46%	2%	0%
6	新しい教育課題や生徒のニーズに対応した教育課程が工夫されている。	19%	53%	22%	7%
7	教科でよく話し合って学習指導計画を立て、指導にあたっている。	22%	49%	19%	10%
8	学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。	24%	54%	17%	5%
9	生徒の思考を促す授業を心がけている。	29%	58%	14%	0%
10	授業に対する生徒の興味・関心を引き出すよう、体験学習や問題解決学習など多様な指導を工夫して取り入れている。	24%	49%	25%	2%
11	教員間の参観等で授業内容を相互に評価するなど、学習指導力の向上に努めている。	25%	49%	20%	5%
12	授業参観や保護者懇談会などを通じて、本校の学力向上の取り組みが保護者にもよく理解されている。	15%	66%	17%	2%
13	生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。	25%	54%	15%	5%
14	生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。	31%	51%	17%	2%
15	本人の適性に応じて学内でのコース変更や受験校選定指導をていねいに行っている。	39%	41%	14%	7%
16	個人情報等の取り扱いに最新の注意を払っている。	51%	39%	7%	3%
17	ICT機器を利用した授業を実践している。	44%	44%	12%	0%
18	生徒指導において、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう教職員の共通理解が得られている。	27%	46%	20%	7%
19	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。	42%	46%	8%	4%
20	生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。	32%	59%	7%	2%
21	いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している。	27%	61%	8%	4%
22	人権教育の推進について計画的に取り組んでいる。	27%	56%	14%	3%
23	海外教育の取り組みによって国際理解が深まっていると思う。	31%	53%	17%	0%
24	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	32%	51%	15%	2%
25	部活動が盛んで、生徒もよく参加している。	19%	53%	20%	8%
26	ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている。	37%	49%	10%	4%

令和 7（2025）年度学校関係者学校評価委員会 結果報告

令和 7 年 7 月 2 日（水）に本校 A 館大教室において、学校関係者学校評価委員会を実施した。外部委員の方々よりご質問や貴重なご意見をいただいた。以下、課題、対策、質問、意見を報告する。

I. 令和 6 年度「中期的目標」に関する報告

資料 1 に従い報告を行った。特筆すべき事柄を以下に記す。

1—①「授業改善に取り組み、教員の授業力を向上させる」について

4 月に、校長から全教職員に説明した。校長による授業参観を実施し、良い点、良くない点について、ペーパー化し、各教職員にフィードバック。何ではなく、なぜを問う授業を。論理的思考力の向上につながる授業を。校長参観の結果、教職員の意識が高まった。2 月に北野高校の授業見学に 10 名の教職員が参加した。

3—①重点目標「あいさつ」について

自分から挨拶をする生徒は、少ない。先生方が、まず挨拶するところからスタート。朝、正門で管理職が「おはよう」と声掛け。自分から挨拶する生徒が少しずつ増えてきた。

5—①②中学・高校入試生徒募集・広報活動

力を入れて取り組まねばならない。中学広報行事の参加者を増やすために、スタンプカード、サタデーサイエンスを実施。サタデーサイエンスは、人気が高く、毎回 10 分で申し込み終了となる。高校入試は、6 か年の学校という印象が強く、なかなか浸透しない厳しさがある。元公立中学校校長に、参事として各中学校の校長だけでなく、直接進路指導に関わる進路主事、担任と話をしてほしいと依頼した。入試結果については、昨年の 40 名入学から、57 名入学と入学者を増やすことができ、一定の成果は得られた。

II. 各部署からの報告

1. 課 題 学習指導について

重点目標① 教員の授業力向上

重点目標② コースに応じた学力向上の取り組み強化

重点目標③ 学習習慣の確立と基礎学力の定着

対 策

- ①校長の授業参観による教員の意識向上のほか、3 学期には教員間における授業研鑽を行い、ほとんどの教員が報告書を提出した。そのフィードバックに若干課題が残る。R7 年度は、生徒による授業アンケートを実施予定である。
- ②全生徒がタブレットを活用。年々積極的になってきている。BLEND 活用によって、生徒、保護者、教員への連絡が円滑になった。また、BLEND で、成績配信を行い、生徒、保護者、教員が学力到達度を共有することで、成績向上に努めた。
- ③OSR の活用によって、中 1、2 全員自学自習の姿勢を身につけることに努めた。考査前は意欲的に取り組んでいる。今後、考査前だけでなく、日常的な学習に活用できるようにすることが課題。中 3 以上の希望者利用も、約 50 名。積極的に利用している。

2. 課 題 進路指導について

- 重点目標①個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導。
- 重点目標②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開。
- 重点目標③キャリア教育を通じ、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できるための様々な取り組みを工夫。

対 策

- ①②医学部医学科合格 15 名（昨年比 1.5 倍）医学部医学科に関して、私学は間口が広がっている。国公立は、35 名。R5 年を上回りはしたが、学年在籍の 2 割には不足している。関関同立 85 名。3 桁達成ならず、大きな課題となった。OSR や、模試のフィードバックをうまく活用することを考える。
- ③キャリア行事に関して、単発的にしか実施できていない。看護師体験、医学部医学科見学、はモチベーションアップにつながる。民医連と連携し、探究授業の充実等をはかりたい。今後、生徒のニーズを見ながら組み立てていく多様化する入試に対応することが求められる。

3. 課 題 生活指導について

- 重点目標①「時間厳守」「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」。
- 重点目標②生徒対象防災教育、SNS や薬物の危険性、心肺蘇生の講習などの実施。
- 重点目標③教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施。学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実。

対 策

- ①年間生活目標について、「あいさつ」は、自分からあいさつする生徒を増やしていきたい。あいさつを返すことはほとんどの生徒ができる。
「時間厳守」は、ベル着、朝の校門通過を指導。チャイムと同時に校門を完全に閉めることを4月から実施したが、生徒もそれに慣れてきている。「ていねいなことばづかい」は、休み時間の会話等から、中学生に指導が必要である。
- ②中学3学年で、それぞれ阿倍野警察や鉄道警察隊の講演を実施した。内容はSNSの危険性、薬物の危険性、痴漢撲滅等。
- ③スクールカウンセラーと連携をはかるため、学期ごとに情報交換をしている。スクールカウンセラーによる、教員向けの講演を依頼しているが、日程調整が難しく実施できていない。教員の人権研修は、LGBTQに関する理解を深める契機となった。

4. 課 題 海外教育について

- 重点目標①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成。
- 重点目標②異文化理解。
- 重点目標③英語によるプレゼンテーションの向上。
- 重点目標④ニュージーランド1年留学・3か月留学を通じて、実用的英語力を涵養する。

- ①4月にオーストラリア（Au）、ニュージーランド（Nz）の姉妹校が来校し、濃い交流ができた。夏は、28名が現地で交流。Auでのホームステイが政府の規制でできにくくなっている。
- ②ハートグローバルでは、海外の若者と交流することで異文化に触れ、自己表現する機会を与えた。
- ③GEZでは、ネイティブ4名との英会話で楽しく英語を学習できている。生徒は小学生から英語の勉強をしているため、積極的に参加している。
- ④2月のスピーチコンテストは、参加人数が増加。特に中学生で顕著。
1年留学を終え帰国した3名にスピーチコンテストでプレゼンをさせたが、非常に成長した様子が見られた。例年5名くらいは留学させたい。

5. 課 題 入試広報部

- 重点目標①＜中学校入試＞入試行事参加者を増やし、募集定員確保のための積極的に広報活動。
- 重点目標②＜高校入試＞幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保。
- ①中学入試に関しては、説明会の動員は増加したものの、受験者数は減らす。昨年入学者158名から161名と微増。付属、共学校の人気に影響。

大谷は 180 名集めたいところ。

- ②高校入試に関しては、ようやく少しずつ 3 か年入試が浸透してきた感触。説明会や、私学展の動員数も伸ばすことができた。入試では、92 名出願。専願 43 名、併願 49 名の内訳。入学者は、57 名。内訳はアドバンス 31 名、プレミアム 26 名。60 名の入学を目標にしていたが、及ばなかった。プレミアムの専願出願者を増やすことに注力したい。SS 特待の新設が、功を奏してくれればと考える。また、高校無償化を追い風にして、入学生増加につなげたい。

Ⅲ. 評価委員の方々からのご意見等

【学校全般に関して】

- ・アンケートには肯定的な意見が多く、よかった。見やすくなった。
- ・先生方の普段の努力が伝わってきて、感謝している。
- ・大谷を選んだ理由は、先生と生徒の距離が近い、面倒見がよい、指定校が多いこと。
- ・私自身も大谷。娘も大谷。本当に感謝している。

【中期目標 1. 学習指導について】

- ・小学校から探究的な学習をしている。タブレットを文房具のように使いこなすようになる。中学校でも探究的な学習は重要だ。
- ・「何をするか」「どのようなことをするか」の上に、「なぜ（やらなければならないか）」がないと、生徒は動かない。〇〇高校の探究的学習の動機づけなど参考にできる。「なぜ」を、もっと強く打ち出したほうがよい
- ・「なぜ」中心の教育は大変よい。大学生でもできない。覚えようとするだけで、結果パンクする。個人でアクティブラーニングしなければ、大学に合格できない。

【中期目標 2. 進路指導について】

- ・医学部医学科合格を目指すクラスは、授業のレベルをどこに置くかが難しい。卒業生の医大生などに、その大学に合わせた勉強法を聞くのもあり。国公立を受ける生徒に対する戦略が必要。

【中期目標 3. 生活指導について】

- ・今日、学校に来る際、広がってしゃべりながら下校する大谷生に会った。かつて自分も同じだったと思うが、このたび、総合グラウンドが住宅になることで、苦情が増えるのではと懸念する。学校の近くの住居だからといって、必ずしも学校に好意的な人ばかりではないと思う。生活指導の先生にご指導よろしくお願いしたい。

- ・ 実際、中学では生徒同士のトラブルも、先生が手厚く相談にのってくれる。そのため、高校では自分で解決できる女性になってきたように思う。

【中期目標 4. 海外教育について】

- ・ 大谷中では、英検について、〇パーセントという目標はあるか？公立中では、中3は3級
⇒英検目標、何パーセントという目標はないが、指定校クラスには取得するよう指導している。中3で準2級57名が現状。

【中期目標 5. 生徒募集・広報活動について】

- ・ HP も、動画などがあり、生徒の様子がよくわかる。
- ・ 大谷中学校って、どんな中学校？と聞いてもピンとこない。
スポーツ？進学？何か一つ明確な打ち出しがあればよいのでは。
- ・ 大谷の特色が、何か一つでも出せたらよいのでは。
- ・ 同窓会としては、広報に協力したいと思っている。

【その他】

- ・ 食堂の席数が、在籍数に対して少ない。改装されると聞いたが、席数を増やしてほしい。キッチンカーやお弁当販売を考えてほしい。保護者は、お弁当作りが負担だし、夏は腐らないか心配もする。
⇒食堂は8月工事だが、席数は増えない。GEZ も昼は食事場所として、利用できる。私立学校としては、食堂はアピールポイント。今度きれいでおしゃれになるのが楽しみ。

IV. 令和7年度学校経営計画等について

めざす学校像は変わらない。目標の見える化をはかり、教員が共通認識を持つようにしたい。

- ・ 中期目標1ー②「コースに応じた学力向上の取り組み」に関しては、6か年、3か年へのアプローチの仕方が異なる。改めて考えたい。
- ・ 中期目標2ー②「生徒の成長に沿った適切な進路指導」に関して、授業アンケートを実施する。「いい悪い」という観点だけではなく、結果をどう生かすかということ。
- ・ 引き続き、DXハイスクールに採択されている。来年度から授業実施。シラバスの作成と、教員の研修を予定。

これからも皆様のご期待に応えるべくがんばっていききたい。近隣の学校からの受験生も増えてきているように思う。今後もよろしくお願いします。